

令和6年度
事業報告書

令和6年4月1日～令和7年3月31日



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目 次

I	令和6年度 総括.....	1
II	方針.....	2
III	事業報告.....	2
1	令和6年度 事業計画策定の基本方針.....	2
2	施設管理運営.....	3
3	事業実施報告概要（事業区分別）.....	4
4	各課（各施設）事業実施報告.....	6
	札幌市児童会館・ミニ児童会館.....	6
	こども事業.....	8
	札幌市こどもの劇場やまびこ座・札幌市こども人形劇場こぐま座.....	10
	千歳市児童館・学童クラブ・千歳市青少年会館.....	12
	札幌市若者支援総合センター・札幌市若者活動センター.....	14
	滝野自然学園.....	16
	札幌市北方自然教育園.....	18
	札幌市定山溪自然の村.....	20
	札幌市青少年山の家.....	22
	札幌エルプラザ公共4施設.....	24
	イベント事業.....	26
5	SDGsの取り組み.....	28
6	基金事業.....	29
7	重要な契約に関する事業.....	31
IV	事務報告.....	32

I 令和6年度 総括

令和6年度、当財団は札幌市の第5期指定管理期間の2年目へ突入した。社会の多様化・価値観の変化が一層進む中、地域に根ざした事業展開を行うことにより、当財団が管理運営する施設の地域における役割等が再認識された1年となった。

札幌市および千歳市内の児童会館・児童館をはじめとし、こども劇場や若者支援施設、エルプラザ公共4施設、野外施設など多岐にわたる管理施設において、財団内の相互連携や地域とのつながりを大切に、柔軟かつ丁寧な運営を行ってきた。

新たな事業の取り組みとして、札幌市内企業から人形劇舞台付き車両が、札幌市へ寄贈されたことを受け、こども劇場課ではその車両を活用した屋外人形劇公演事業をスタートさせ、エルプラザ公共4施設においては、個人の方より寄贈いただいた電子ピアノを活用した利用者参加型のロビーコンサート事業を開催した。当財団単独では実現困難であったこれら事業は地域社会とのつながりによって実現可能となった。今後も地域との連携を深めることで、新たな事業展開の可能性が広がることが期待される。

また、札幌では児童会館職員が講師となり、青少年山の家を会場に、親子でモノづくりの楽しさを体験する「子どものためのナイフワーク事業」を展開した。また、千歳では児童館・学童クラブの子どもたちが制作した折り紙作品を千歳市内の会場に展示し、訪れた幅広い世代の方々と制作を通して交流する「おりがみワークショップ事業」を実施した。子どもたちは伝える難しさを感じながらも、共に作品制作を行う楽しさを体感した。

いずれの事業も幅広い世代に向けて日常における楽しさや、豊かな体験活動の機会を創出し、地域と共に事業を発展させることができた。

加えて、組織としては、令和6年度よりリスク管理対策室を開設し、自然災害への対応や、施設利用者の安全確保、個人情報保護等の課題解決に向け、財団内での整備を進めた。誰でも安心安全に、そして快適に利用できる「居場所」としての施設運営が求められる中、あらゆるリスクを想定し環境の整備を進めることで、施設の社会的価値を高めた。また、人事部では、職員を大切な経営資源と捉え、「SYAA People Fact Book」（当財団で働く職員の状況を数値化した人的資本レポート）の作成を行い、今後の職員採用や人材育成、これまでに培われた文化の継承に活用し、当財団の更なる進化につなげる取り組みとしていく。

今後も人口構造の変化や地域課題の複雑化に対応するため、「魅力あふれる未来社会の創造」という経営理念に基づき、市民からの信頼を得ると共に、財団内職員が個性を発揮できる風土醸成を進め、持続可能且つ、開かれた公共サービスの提供を目指し、一層の努力を継続していく決意である。



II 方針

経営理念

人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造



経営方針

私たちは、多くの出会いや公益事業を通じて「つながる」よろこびを創出し、
地域社会の発展や心豊かなくらしの実現を追求します。

III 事業報告

1 令和6年度 事業計画策定の基本方針

1 持続的成長に向けた財務基盤の強化

より適正な財務コントロールを行う仕組みを整備するとともに、社会情勢を捉えた新たな収益源の確保や事業領域の拡大に向けた未来への投資を行うことで、財務基盤の強化を図る。

2 社会動向や市民ニーズの変化をとらえた安定的な事業価値の提供

社会動向の変化に伴う、社会情勢や市民ニーズの変化を的確に捉えた新たな事業価値の提供を行う。加えて、自然災害や情報漏洩などの多様な事業リスクに対しても適切な管理体制を整え、いかなる環境においても安定的に事業を提供することに努める。

3 安定運営に向けた人材確保と労働環境の整備

求める人材像と合致する職員の採用を進めるとともに、職員一人ひとりが前例踏襲に捉われることなく、意欲的に挑戦していく過程の中で働きがいを得ながら成長できる労働環境の整備を図る。

2 施設管理運営

(1) 自主運営施設 1施設

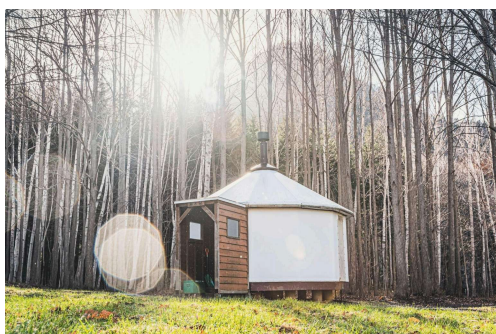
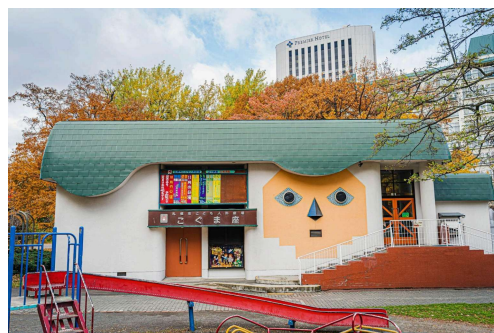
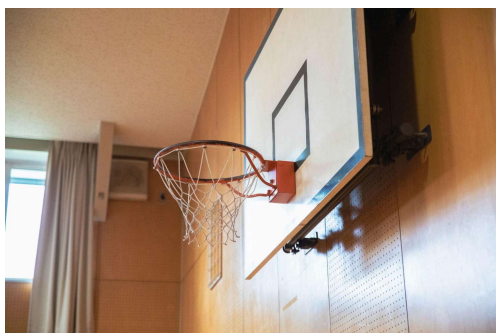
滝野自然学園	1施設
--------	-----

(2) 指定管理施設 117館・6施設

若者支援施設	5館
児童会館	111館
青少年山の家	1施設
定山溪自然の村	1施設
北方自然教育園	1施設
札幌エルプラザ公共4施設	1施設
こどもの劇場やまびこ座	1施設
こども人形劇場こぐま座	1施設
千歳市青少年会館	1館

(3) 受託施設 98館・18箇所

ミニ児童会館	88館
千歳市児童館・学童クラブ	10館・18箇所



3 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】

（1）青少年の健全育成と社会参加に関する事業

（2）社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

ア 子ども育成事業

① 青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業・学習活動事業・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業・インターンシップ、各種実習の受け入れ

② 体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

③ 施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等・こども劇場の管理業務、貸室等
- ・千歳市青少年会館の管理業務、貸室等

イ 若者自立支援事業

① 体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業・ボランティア参加事業等

② 受託事業

- ・地域若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

③ 調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

④ 施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

ウ 自然体験活動事業

① 滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業・職員派遣事業・情報発信事業・団体支援事業・施設管理運営事業

② 北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業・施設管理運営事業

③ 定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業・施設管理運営事業

④ 青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業・施設管理運営事業

(3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業	
ア 市民活動振興事業	
①活動支援事業	○男女共同参画啓発事業・市民活動関連事業・NPO活動支援事業・相談・支援事業
②職員派遣事業	○大学、高等学校他への職員派遣
③情報発信事業	○各種情報誌の発行事業

(4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業	
	○民間企業等から受託したイベント企画運営等事業・物品貸与等事業
他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、公益目的外での施設貸与事業	
	○札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家管理運営 ○こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業

<定款に掲げる4事業に該当する、施設等の名称>

該当する 施設等名	定款の事業名	青少年の健全育 成と社会参加に 関する事業	社会教育の推進 に関する事業	市民活動の振興 に関する事業	その他法人の目 的を達成するた めに必要な事業
児童会館・ミニ児童会館		●			
こども事業		●			
やまびこ座・こぐま座		●			●
千歳市児童館等		●			
若者支援施設		●			●
滝野自然学園		●			
北方自然教育園			●		
定山溪自然の村			●		●
青少年山の家			●		●
エルプラザ公共4施設				●	●
イベント事業					●

4 各課（各施設）事業実施報告

1 札幌市児童会館・ミニ児童会館

<事業方針の達成状況>

基本方針に則り、子ども施策の動向を踏まえながら、全館において子どもの意見を反映した事業を意識的に実施した。また、内容の充実に焦点を当てた多様な体験活動を実施し、取組内容を検証・分析したことにより、子どもたちが輝ける事業展開を推進した。さらに、外部関係機関との連携や共同研究を通じて「あそび」の専門性の可視化へとつなげた。交流事業の実施やボランティアの受け入れについても一定の成果が見られ、子どもの居場所としての機能強化を図ることができた。

人材育成については、館長職を中心に人材育成意識の醸成を図り、児童会館において各職位に求められる役割、能力、スキルをテーマにした研修を充実させるとともに、人材定着に係る取り組みを強化することができた。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	406万5,000人	73万5,000人	85%
実績 (達成度)	408万7,892人 (100.6%)	70万7,016人 (96.2%)	87.3%

<重点・新規取組>

青少年の健全育成と社会参加に関する事業

①青少年活動支援事業

子どもたちが安全に過ごせる居場所づくりと各事業を通して子どもたちの自立を促進する。

事業内容と成果	時期等
ふり→たいむ事業「清田ブロック中高生PJ」 平岡高校を訪問し、けん玉等昔遊びを通して、ふり→たいむの周知活動を実施した。学校と連携し、訪問後にチラシを配布して児童会館の活用について生徒へ情報提供を行った。学校祭前には、ダンス等の目的で会館を利用する高校生が増加し、活動の場を提供する機会となった。冬には、体育室活動の待ち時間にゲームを用いて仲間と活動できる環境を提供したところ、多くの中高生が参加し、新たな来館動機の発見につながった。	日時：①5/15 ②6/27 ③12/3～12/20 ④1/22、1/23 回数：4回 会場：平岡高校、清田 区児童会館 参加人数：①24人 ②38人③34人 ④10名

②体験機会創出事業

各児童会館や地域の特性を踏まえ、子どもたちが輝ける事業を展開する。

事業内容と成果	時期等
他課連携事業「冬のあおぞら児童会館 みんなの公園に児童会館がやってきた！」 より多くの人々への児童会館の認知向上を図るとともに、こども若者事業部全体で連携することによって、それぞれの強みを活かし、課題を抱える子どもへのアプローチと居場所づくりを推進することを目的として実施した。公園での雪遊びを中心に、パペットカーによる公演等も併せて実施した。次年度の地域との事業展開を図るための足掛かりとなる機会となった。	日時：1/8～1/10 回数：3回 会場：清田区内公園3か所 参加人数：303人
合同行事「南区児童会館ドッジボール交流会」 南区児童会館・ミニ児童会館12館による交流事業を東海大学との産学連携により実施した。事前活動から他館や大学生との練習を通じた交流を図ることができた。また、参加者同士が互いに応援する姿も見られる等、終始和やかな雰囲気の中、日頃の練習の成果を発揮する機会となった。	日時：1/19 回数：1回 会場：東海大学体育館 参加人数：254人

<利用状況>

(人)

利用者区分	人数	内訳					
		幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	2,489,892	106,030	1,676,934	420,189	104,053	36,000	146,636
ミニ児童会館	1,470,897	1,874	1,201,265	259,704	264	167	7,623
占用利用	127,153	4,245	21,852	24,213	23,727	3,277	49,839
総利用 (前年度比)	4,087,892 (107.8%)	112,149 (100.3%)	2,900,051 (106.3%)	704,106 (113.1%)	128,044 (125.7%)	39,444 (126.2%)	204,098 (104.3%)



<事業方針の達成状況>

子どもや家庭、若者世代が抱える様々な課題を早期に発見し、必要な支援につなげるため、ヤングケアラー相談サポート事業、他課連携事業等の取り組みを推進することで、連携や協働の基盤をつくることができた。また、こども家庭庁の設立等、外的要因の変動を機会としてとらえ、職員の専門的スキルの強化（こども家庭ソーシャルワーカー認定資格取得、管理関係資格取得）につなげることができた。広報面では、必要とする人に適切な情報が届くよう関係者との情報共有を図り、事業参加につなげた。

法人内部への働きかけとして、こども若者事業部の「マネジメント会議」を開催し、連携事業のねらいや注力箇所を可視化することで、各部門内の企画・戦略を検討する上での現在地を確認することができたほか、将来を見据えた話し合いを経て計画的な予算執行につなげることができた。

	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	4,500人	90%
実績 (達成度)	4,703人 (104.5%)	93%

<重点・新規取組>

青少年の健全育成と社会参加に関する事業

①青少年活動支援事業

子ども若者の抱える困難を早期に発見し、その心身の健やかな育ちを支えるために生活活動の機会や居場所の提供を行う。

事業内容と成果	時期等
「一時保護所特別活動実施支援業務」 児童相談所が運営する「一時保護所」の入所児童（小・中学生）が、各種プログラムを通して生活の充実感や楽しさを感じ、児童の情緒の安定を図ることを目的として実施した。こども事業課職員のほか、若者支援事業課、こども育成課の職員が従事したことで、それぞれの業務スキルを活かした工作や運動、表現遊び等様々なプログラムが展開され、閉鎖的な空間の中でも充実した時間を提供することができた。	日時：6/17～月6回程度 回数：74回 会場： 一時保護所ホール等 参加人数：604人

②体験機会創出事業

社会のニーズに応えた基本的な社会性や生活習慣を育む体験事業・交流事業を幅広く多様な方法で展開することで、子ども若者の将来の困難予防及び選択領域の拡大につなげる。

事業内容と成果	時期等
調査・研究事業 「かもかもスタディ」 少子化が進行する社会において、児童会館の新たな活用法を探るため、地域ボランティアの協力を得て学習支援と食事提供を組み合わせた事業を試行的に実施した。学習習慣が乏しい子どもに対して、「あそび」の1つの選択肢として学習に取り組める環境を設定することで、子どもたちの興味関心を広げるきっかけを提供することができた。	日時：4/12～毎週金曜 回数：48回 会場：中島児童会館 参加人数：462人
札幌まなびのサポート事業「札幌市青少年山の家×スペシャルまなべえ RE：とまるべえ」 札幌まなびのサポート事業の参加中学生を対象に、野外活動等の体験機会の創出と自己・他者理解を目的として実施した。自主学習、野外炊事、ネイチャープログラム（星空観測等）、交流プログラムを行った。コロナ禍の影響で宿泊型行事や野外活動体験の経験がない中学生が多く、事後アンケートでは、体験を通して他参加者との交流を深められたことが満足度につながっていた。	日時：10/26～10/27 回数：1回 会場：青少年山の家 参加人数：中学生81人 学習支援ボランティア9人



＜事業方針の達成状況＞

市民劇団の育成は、人形劇等のこども文化の持続的な市民への提供につながった。令和6年度も各世代に合わせた人形劇、児童劇、人形浄瑠璃の育成事業を実施し、新たに7劇団が誕生した。また、連携研修「人形劇ゼミナール」において部門を越えた職員育成を行い、人形劇創作の知識を深めるとともにグループワークを学ぶ機会となった。安定的な指導者の確保と職員の専門的スキル向上を目指し、内外において若い世代の指導者育成の取り組みを進めた。

指定管理期間に大きな柱として位置付けている、文化芸術による社会的包摂機能を推進する様々な事業展開を進めた。障がいの有無に関わらずともに創り上げる舞台「北のおばけ箱」シリーズ、「パペットアートビレッジ」、「舞台手話通訳付人形劇公演レギュラー化」を定期的に実施することができた。また、支援学級、道内聾学校等への巡回公演・ワークショップといったアウトリーチ事業も積極的に実施した。これまで関わりのなかった関係団体、個人とのつながりや協力体制の構築ができ、新たな広がりを見せていることに加え、足を運ぶことが少なかった障がい当事者や、近隣の児童デイサービスの子どもたちが毎週のようにグループで観劇に訪れる等、やまびこ座・こぐま座の活動が市民に少しずつ認知されてきている成果と言える。

次年度は、市民のソーシャルインクルージョンの理解を進めるため、劇団や関係団体と連携し発信力を高めることが課題である。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	7万人	2万4,000人	90%
実績 (達成度)	9万7,816人 (139.7%)	2万9,405人 (122.5%)	99.5%

＜重点・新規取組＞

青少年の健全育成と社会参加に関する事業

①青少年活動支援事業

児童文化の普及及び子どもの健全育成のための人材育成により、公演の担い手を確保する。

事業内容と成果	時期等
「やまびこ座・こぐま座パペットカレッジ（経験者のための人形劇講座）」 創造性と自主性を培い、札幌の人形劇文化を支える人材の育成を目的に大学生から主に20代の若手劇団を対象とした人形劇講座を実施した。今年度は若手4劇団が参加し、意欲的な新作を製作し公演を行った。将来のやまびこ座・こぐま座の公演活動を支える担い手となることが期待できる活動となった。	日時：6月～3月 回数：32回 会場：やまびこ座、こぐま座 参加人数：270人(延べ)

②施設管理運営事業

法令を遵守し、利用者等の安全確保及び施設・設備の維持管理、施設貸与を行うとともに、子どもに関わる舞台活動の拡充に関する業務に取り組む。

事業内容と成果	時期等
北海道の創作人形劇 さっぽろパペットシアタープロジェクト 「北のおばけ箱3」 誰もが豊かな体験の機会や舞台芸術を享受できる社会を目指し、多様性の理解を促進する作品創作と公演を行った。人材養成事業・障がい児との文化芸術推進事業等と連動させ、各事業の参加者とともに舞台を創りあげた。また、児童会館部門と連携し、児童会館10館の子どもたちを招待して貸切公演を実施した。	日時：12/21、12/22 回数：3ステージ （内1ステージ児童会館貸切公演） 会場：やまびこ座 参加人数：642人
「舞台手話通訳付人形劇 レギュラー公演プロジェクト」 定期的に公演することで、多様な価値観を認め合うインクルーシブな共生社会の実現を文化芸術の側面から目指す事業とした。今年度は札幌市内で活動するアマチュア人形劇団の4作品に手話通訳を付与し、健聴者も聴覚障がい者も観劇をともに楽しめるように取り組んだ。	日時： こぐま座8/21～8/22、 2/22～2/23 やまびこ座9/14～9/15、 3/26～3/27 回数：12ステージ 会場： こぐま座、やまびこ座 参加人数：635人 （こぐま座333人・やまびこ座302人）

<利用状況>

(人)

施設	区分	人数
やまびこ座	観劇者数	15,229
	出演者数（リハーサル含む）	7,928
	貸室利用	11,526
	来館等 （ロビー・展示室・図書コーナー、研修・見学、アウトリーチ事業、屋外事業等）	25,382
	小計（前年度比）	60,065（120.6%）
こぐま座	観劇者数	9,966
	出演者数	2,324
	研修・見学者数	25,461
	小計（前年度比）	37,751（115.0%）
合計（前年度比）		97,816人（118.4%）

＜事業方針の達成状況＞

児童館で人形劇クラブや千歳市内初となる巨大迷路等、法人のノウハウと地域資源を活用した事業を展開した。児童館・学童クラブでは一体的運営による効率化を図り、おやつ提供検討のプロジェクトを発足した。また、青少年会館では、不登校傾向の中学生向けに人形浄瑠璃ワークショップ等を開始し、今後の発展・成長を目指して変革が感じられる1年となった。さらに、関係機関や外部団体との関係構築の機会を増やし、千歳市スポーツセンター、Jr.ちとせ、ヤングケアラー対策等との連携を進めたことが活動の活性化につながる成果として見られた。利用者アンケートの結果から、広報の強化と子どもたちの意見の反映が課題であることが明らかになったため、HPやInstagramを活用し、魅力的な情報発信と活動の可視化を図る必要がある。

令和6年度から館長会議を報告の場から協議する場へと変えたことで、館長職の問題意識や当事者意識が高まり、現場の部下職員への伝達事項の周知においても変化が見られ、業務意識の統一化に向かっている。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	24万6,168人	1万2,060人	児 童 館 85% 青少年会館 90%
実績 (達成度)	23万7,653人 (96.5%)	1万3,089人 (108.5%)	児 童 館 80.2% 青少年会館 72.4%

＜重点・新規取組＞

青少年の健全育成と社会参加に関する事業

①体験機会創出事業

子どもや保護者の要望等を取り入れながら、各事業を計画的に実施する。

事業内容と成果	時期等
「ダブルダッチ体験会」 千歳市で活動する（一社）日本ジャンプロープ連合北海道支部の方を講師に招き実施した。プロのパフォーマンスを間近で見たことで、子どもたちの興味関心が高まったとともに、初めて体験する子どもや運動に苦手意識を持つ子どもも、講師の丁寧な指導や肯定的な声掛けに応じて挑戦する様子が見られ、跳べたことでダブルダッチの楽しさを味わい、今後の活動意欲につながる機会となった。	日時： ①8/1②8/15③8/22 回数：3回 会場： ①ほくよう児童館 ②ちとせこ児童館 ③しゅくばい児童館 参加人数：①80人 ②34人③34人

事業内容と成果	時期等
「ちとせっこ児童館 人形劇クラブ」「人形劇クラブ クラブ発表会」「世界人形劇の日 こども人形劇フェスティバル」 5月から活動が続けてきた「ちとせっこアニマル劇団」の初公演を行い、幼児や小学生・保護者・地域関係者等多くの来場者の前で披露した。注目されたり笑い声が上がったりすることに高揚感を得て、一人ひとりが演じることを楽しんでいた。これまでの活動と公演を通して仲間意識が一層高まり、今後の活動への意欲につながった。また、3月20日にやまびこ座で開催された「世界人形劇の日こども人形劇フェスティバル」にも出演し、今年度の活動の集大成とすることができた。	【人形劇クラブ】 日時：5月～3月 回数：32回 参加人数：184人(延べ) 【クラブ発表会】 日時：1/10 回数：1回 参加人数：96人 【こども人形劇フェスティバル】 日時：3/20 回数：1回 参加人数：7人

<利用状況>

(人)

	児童館	学童クラブ	計	青少年会館
合計 (前年度比)	115,922 (115.0%)	114,048 (97.6%)	229,970 (105.6%)	7,683 (55.9%)



<事業方針の達成状況>

団体との連携による食の提供やロビー利用者の意見を取り入れた環境整備に取り組み、若者との関わりを深め、居心地の良いロビー空間づくりに努めた。アウトリーチ事業を強化し、定時制・通信制高校を中心に学校内居場所・随時訪問型等、多様な出張ユース・ワーク、Youth+みんなのカフェ部等を展開した。10代の複雑化する困難に対し、Youth+の機能を柱に置き、サポートステーション、ヤングケアラー相談サポート、リビングカー事業が連携しアプローチをかけたことで困難な状況を抱える若者の支援に貢献した。加えて、アウトリーチ事業の強化によってYouth+の認知度が向上したことで施設に足を運ぶ若者が増加し、ロビー利用者の定着化につながり、利用者総数、事業プログラム参加者数は目標値を上回った。また、大通ユースワークを通して若者の声を聞き取り、ニーズアンケート、ユースワーク協議会との他都市情報交流会、若者支援施設運営協議会等とともに社会課題の把握を行った。多くの学生が孤立や予期不安等に陥る傾向がある現状を把握し、Youth+でのユースワーカー養成講座や大学においてユースワークを通じた体験や学ぶ機会を提供した。また、ユースワークに興味関心を持った若者が増え、地域若者サポーター（ボランティア）、有期職員としての雇用にもつながった。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
目標	24万9,000人	4万5,300人	99%
実績 (達成度)	27万2,169人 (109.3%)	4万8,887人 (107.9%)	91%

<重点・新規取組>

青少年の健全育成と社会参加に関する事業

①体験機会創出事業

若者の総合的自立を支援することや、若者の多様なニーズと価値観に寄り添う。

事業内容と成果	時期等
「七夕まつりYouth+アカシア」 会館利用者とのユースワークで得られた若者の地域活動希望を実現化し、社会参加を促進する取組みとして本事業を実施した。大学生サークル3団体とロビー利用者が、地域町内会のお祭り事業において、カフェ、工作、ヨーヨー釣り、昔遊び等の多様なコーナー運営を行った。各団体の強みを活かした企画運営は、来場者及び町内会役員から好評を得た。若者は、自らの活動が地域社会の創出に貢献していることに喜びと達成感を感じている様子であった。	日時：8/6 回数：1回 会場：白樺公園 参加人数：222人 人数内訳：若者160人 (内スタッフ側参加23人、一般62人)

②調査研究事業

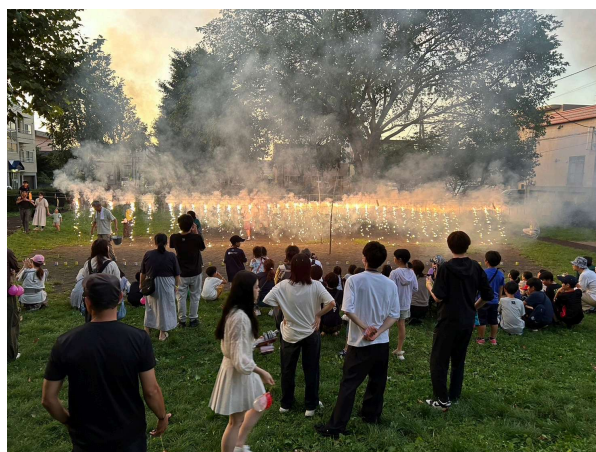
事業参加者へのアンケートや関係機関へのヒアリングを行い、若者を取り巻く環境の調査等を実施する。

事業内容と成果	時期等
若者を取り巻く環境調査「若者の声PJ大通ユースワーク」 大通公園周辺に集まる若者たちに向けてデタッチドユースワークとしての取組みを実施し、若者たちとの関係づくりを目的に声掛け活動を継続して行った。その中でスケートボード、自転車、ラップ、仲間との時間を過ごす等、多様な理由で集まる若者たちの状況を集めた。また、フードバンク等の取組みを通して、Youth+とつながる事例も多く見られた。継続して話を聞く機会を持てた若者グループには、「ユースワーカー」の認知度は広まっており、若者の方から声をかけてくれる機会が増えた。	日時：5/1～2/24 回数：33回 会場：大通公園周辺 参加人数：268人

<利用状況>

(人)

	若者（前年度比）	一般（前年度比）
自立支援事業	8,843（92.4%）	4,965（100.7%）
交流促進事業	26,516（117.7%）	726（97.1%）
社会参加促進事業	5,671（103.4%）	2,166（87.5%）
ロビー利用	44,512（117.4%）	1,648（94.3%）
貸室利用	126,673（109.0%）	50,449（109.4%）
総利用者数	212,215（110.7%）	59,954（107.1%）



<事業方針の達成状況>

グループワークを手法としたキャンプ事業では、幼児向け、小学生向け、ファミリー向けと各世代で事業を実施した。特に「遊習塾 リトルキャンプ」ではこども育成課に協力を依頼し、児童クラブの見守りシステムを活用して告知した結果、定員を大幅に超える応募があり、市内各所の児童会館に在籍する子どもたちも多く参加する結果となった。事業実施後の保護者アンケートでは、異年齢での活動から得られた気づきや学びが多くあったと高い評価を得ており、根幹事業であるグループワークを手法としたキャンプ事業において一定の成果が得られた。

併せて、厚別川での水遊びや厳冬期の雪遊び等、市街地では体験できない滝野自然学園ならではのプログラム提案とHPやSNSでの発信により、長期休業期間を中心に利用者人数の増加につながった。また、市内近郊の類似施設の料金や過去の事業利益率の調査分析結果のもと、施設維持にかかる経費との収支バランスを取るべく、次年度以降の料金改定に向けて検討する。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	4,000人	1,500人	97%
実績 (達成度)	5,958人 (149%)	1,567人 (104.5%)	97%

<重点・新規取組>

社会教育の推進に関する事業

①体験機会創出事業

財団内の利用を促進することで各課の事業推進に寄与し、利用率を向上させるため、ノウハウを活かしたプログラムの提供や企画立案の援助を行う。

事業内容と成果	時期等
「親子DEキャンプ練習会」 親子がキャンプへの興味を深め、当課の夏季キャンプ事業への参加につなげることを目的として実施した。テント設営やアウトドアクッキング、親子で使えるキャンプグッズづくりを行った。「キャンプに家族で挑戦してみたくなった」という意見が多くあった。また22組中12組が終了後に夏季キャンプ事業の申込みにつながり、事業周知の機会としても有効であった。	日時：①5/25 ②6/8 回数：2回 会場：滝野自然学園 参加人数：22組68人

事業内容と成果	時期等
「ファミリーキャンプin洞爺湖」 昨年度、定員を大幅に超える申込みがあったため、今年度は回数を2回に増やして実施した。自由時間を多く設定し、日常を離れた環境で親子のコミュニケーションを深める機会を提供することができた。キャンプ道具が不要で手軽に参加できる点が好評であった。	日時：①7/27～7/28、 ②8/3～8/4 回数：2回 会場：洞爺財田キャンプ場 参加人数：20組67人
「リトルキャンプ～滝野魔法学校～」 「魔法使い」をテーマに、小学1～3年生の児童を対象とした2泊3日のキャンプを実施した。事前説明会を実施したことで、親子ともに「安心して参加できた」との声が多くあった。仲間と一緒に様々なプログラムにチャレンジする中で、友情や相手を思いやる気持ちが芽生え、別れ際には涙を流す参加者が多くいた。仲間と過ごす体験や自然体験を通して、帰宅後に「普段口数が少ないが、体験したことをたくさん話してくれた」等の保護者からの声が多くあり、子どもの成長につながる事業となった。	日時：①8/5～8/7、 ②8/7～8/9 回数：2回 開場：滝野自然学園 参加人数：80人

<利用状況>

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数 (前年度比)	5	390	526	1,057	1,232	420	431	188	85	617	781	226	5,958 (115.5%)
団体数 (前年度比)	0	9	14	20	21	12	12	5	2	13	9	3	120 (109.1%)



＜事業方針の達成状況＞

コンソーシアムの専門性を生かした役割分担を明確にし、相互連携を強化することで、事業運営の効率化を図ることができた。特に課題であった農業の技術伝承については、ネイチャープログラムデザイン内部での技術力強化が図られており、当財団においても、農業機材の更新などを行い、学校教育のサポートを充実させることができた。また、外部団体との連携も積極的に行い昆虫展示などの新たな取り組みを実施することができたほか、施設内においてもファミリー層をターゲットにした配置を盛り込み、集客の増加につなげることができた。一方で、体験農園の利用数は授業数の削減やバス料金高騰の影響もあり減少傾向にあり、それに関連する事例として、所管部局である札幌市教育委員会教育推進課からの依頼を受けて不登校児童向けのオンライン授業の実施実績を作ることができた。オンラインの仮想空間（メタバース）上で子どもたちに対し北方自然教育園の魅力を伝えることができた。施設が単なる体験施設に留まらず、多様な学習ニーズに応えられる教育支援拠点としての価値を高める必要があると考えられる。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	8,500人	900人	92%
実績 (達成度)	8,559人 (100.7%)	977人 (108.6%)	95%

＜重点・新規取組＞

社会教育の推進に関する事業

①体験機会創出事業

魅力ある施設づくりを目指し、自然体験学習の提供に関する事業を実施するとともに、自然体験活動に関するノウハウを基に、子ども・若者関連施設等と連携して課題解決を目指す。また、施設運営の趣旨を理解し、賛同する地域・企業・組織・他施設との連携を図り、リピーターの獲得を推進する。

事業内容と成果	時期等
「自然体験工作会」 園内で採取した自然素材を用いた工作を通して、身近な自然への関心を促し、創意工夫による発想力を養う機会を提供した。自然と触れ合う機会を創出し、参加者自身がより自然への興味を深めるきっかけとなった。	日時：4/1～3/1 回数：随時 会場：北方自然教育園 参加人数：353人

事業内容と成果	時期等
「体験農場」 作物の植付けや収穫体験等の農業体験を通して自然環境や人と作物の関係を学ぶことを目的として実施した。畑体験を希望する学校が増加傾向にある。種まきから収穫までを行う体験は、植物の観察に加え重要な体験学習活動となった。	日時：5/16～11/29 回数：62回 会場：北方自然教育園 参加人数：2,170人
「自然学習機会の提供」 環境保全と在来種保護の啓発・情報発信のため、関係団体と連携し館内で多様な企画展を実施した。10月以降、「秋の危険生物」「冬の森で何だろう」「冬の北方昆虫展覧会」を行い、来館者に様々な知識を提供した。冬季ならではの室内展示を充実させた結果、来館者の大幅な増加につながった。	日時：10/1～3/31 回数：3企画展 会場：北方自然教育園 参加人数：456人

<利用状況>

	施設利用		体験農場	事業	合計
	学校・園	一般			
団体数（団体）	53	7	62	162	284 (91.6%)
人数（人）	1,722	3,690	2,170	977	8,559 (99.7%)



<事業方針の達成状況>

今期指定管理期間の基本方針である「野外教育施設として求められる新たな価値の創造と実現」に基づき、令和5年度に引き続き、施設利用者に対して「気づきと学び」を得られるセルフプログラムを開発・提供し、充実を図った。令和6年度は既存プログラムに加え、その対象を施設利用者だけでなく定山溪保育所等へのアウトリーチ事業を展開し、施設外へもつなげることや、定山溪地区の各団体と共同で定山溪地区の一大イベント（雪灯路）にマッチアップさせたフェスティバル事業を行う等、地域に根ざした事業展開を行った。

SNSの現状分析には至らなかったが、更新頻度を上げ日々の様子を発信したことや、各施設の特徴や利用具体例に基づいたレンタル・販売物品や利用料金がわかりやすいWEBページ等を作成し、WEBページや各種SNSをまとめた広報カードをイベントで配ることで利用促進を図った。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	1万9,200人	5,760人	98%
実績 (達成度)	1万8,654人 (97.2%)	8,112人 (140.8%)	98.5%

<重点・新規取組>

社会教育の推進に関する事業

①体験活動機会創出事業

自然体験活動の機会や自然体験活動に関する知識を得る機会の提供を通して市民の主体的な学びを促すとともに、自然体験活動の普及振興を図ることを目的として事業を展開する。

事業内容と成果	時期等
「『気づきと学び』プログラム連携事業」 今期指定管理期間の基本方針である「気づきと学び、人と自然のつながり、人と人とのつながり、持続可能な社会と未来を創造する人づくり」を達成するため、昨年度より本事業をレベルアップさせ実施した。新規プログラムとして火起こしを行う「ファイヤースターターチャレンジ」や、昨年度から継続した自然の草を用いた草笛等、利用者が主体的に体験できるプログラムを用意し、自然の中での「気づき」や「学び」を得られるきっかけとなった。	日時：4/1～3/31 回数：通年実施 会場：定山溪自然の村 参加人数：1,081人

事業内容と成果	時期等
「定山溪自然の村プレゼンツイベント雪灯路CAMPフェス～ほっと一息焚き火体験～」 地域活性化及び野外体験活動の振興を図ることを目的とし、定山溪の冬の一大イベント「雪灯路」に合わせてCAMPフェスを実施した。テントやタープ、ランタンや焚き火台等を用いてコーナーを展開し、雪灯路参加者に向けてキャンプ場の雰囲気が味わえる各種体験活動を行った。定山溪観光協会主催のイベントの中で事業を実施したことで、地元地域の企業等と連携し地域の活性化を図るネットワークを創出することができた。また、国内外問わず多くの方に野外活動の普及啓発の機会を提供することができた。	日時：1/26～1/27 回数：1回 会場：定山溪神社 参加人数：2,000人 イベント期間中 自然の村SNS (Instagram) フォロワー数 500増

<利用状況>

(人)

	宿泊	日帰り	計
総利用 (前年度比)	16,332 (97.5%)	2,322 (87.3%)	18,654 (96.1%)



＜事業方針の達成状況＞

新規事業『こどもどもんなか』プロジェクトでは、児童会館の小学生や清田区まなびのサポート事業参加者とプログラムの計画段階から意見交換を行った。これにより、子どもたちの主体性と創造性を育む契機になった。

札幌市林間学校事業では、札幌市教育委員会や小学校教員との協働により、社会教育と学校教育双方の理解と利点を活かした事業実施が実現した。『Re：とまるべえ』は「まなびのサポート」事業と連携し体験格差の解消を目指し、100名を超える参加希望がありニーズが確認できた。

広報では、HP、Facebookに加えInstagramの発信を強化したことで、フォロワーが約5倍に増加となり、今後もSNS広報を推進していく。令和5年度から実施している『あそびばざ〜る』では自然体験等の団体を公募し、新たな3団体が運営に参画、ネットワークが拡大した。参加者も500名を超え、施設や活動内容を知ってもらう機会となった。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	6万1,000人	1万2,000人	97%
実績 (達成度)	6万7,380人 (110.5%)	1万5,116人 (126.0%)	97%

＜重点・新規取組＞

社会教育の推進に関する事業

①体験機会創出事業

年間を通して自然体験ならびに生活体験プログラムの提供を行う。定番プログラムの実施に加えて、利用者の目的や希望に沿った活動内容を柔軟に提案する。また、学習指導要領及び学校教育の動向を捉えた新規プログラムの開発に努める。この他、自主事業の企画運営を実施することで体験活動の普及啓発に努めるとともに、SNSを活用した積極的な広報活動を行い、自然体験活動の魅力を広く発信する。

事業内容と成果	時期等
「やりたいをかなえる『こどもどもんなか』プロジェクト」 子どもの「やりたい」を実現し、主体性と創造性を育むことを目的に、平和児童会館と協働で実施した。事前に子どもたちの意見を収集し職員と準備を進めた結果、主体的なプログラムとなり、満足度の高い体験活動が展開できた。また、札幌まなびのサポート事業の3会場に出向き、中学生を対象に山の家でやりたいことの話し合いを行った。生徒たちは積極的に参加し、学習サポーターや会場コーディネーターが考案した謎解き、鬼ごっこ、カラオケ、ゲーム等、生徒の希望が盛り込まれた事業となった。	日時：①8/9 ②9/15～9/16③10/8～10/16④12/15 回数：7回 会場：青少年山の家、平和児童会館、清田区まなべえ会場他 参加人数：123人

事業内容と成果	時期等
「こどものためのナイフワーク指導者講習会inさっぽろ」 子どもたちの体験から成長につなげる機会を増やして体験活動の充実を図るため、子どもたちと接する機会のある指導者へ向けたナイフワークの講習会を1泊2日で実施した。子どもたちへの指導方法の講義後、実践として2日目には別に募集した親子へ向けてのワークショップを開催した。子どもたちの野外活動、自然体験、体験活動に関わる方々とのネットワークを広げる機会となった。	日時：3/15～16 回数：1回 会場：青少年山の家 参加人数：67人

<利用状況>

利用者区分	団体数（団体）	実利用者数（人）	延利用者数（人）
学校	321	20,735	38,328
青少年団体	56	2,983	5,252
指導者団体	9	473	797
親子	3	16	32
官公庁	4	103	110
その他	111	3,651	6,665
主催事業	186	15,116	16,196
総利用 (前年度比)	690 (96.1%)	43,077 (108.8%)	67,380 (107.9%)



＜事業方針の達成状況＞

時代の変化や市民のニーズ、社会課題を的確に捉え、従来の支援枠にとらわれず先進的な海外の事例も取り入れた質の高いプログラムを展開した。これにより、今までリーチできなかった層の参加につながり、様々な立場の視点を取り入れたことで新たな気づきや問題意識の深化を促す機会となった。

また、各事業の定員充足率の向上を目的にSNSや地域メディア、連携機関とのネットワークの活用やアウトリーチの取り組みによって施設の認知度向上と事業内容の周知・参加促進を図った結果、全体としては目標の60%を達成できた。

有料貸室の新規利用者開拓に向けた取り組みとしては、企業及び各施設に対し、有料貸室のパンフレットの送付や普段利用しない層への認知度向上を目的に、地下鉄有料広告への貸室事業ポスターを掲示した。さらに、課題であったホームページの効果的な運用やフリーWi-Fiの稼働を実現させたことで利便性が向上し、前年度比で599件、42,252人の利用増となった。

	利用者数	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	50万9,000人	1万6,500人	90%
実績 (達成度)	52万124人 (102.2%)	1万8,818人 (114.0%)	93%

＜重点・新規取組＞

市民活動の振興に関する事業

①活動支援事業

市民活動の振興を目的として、市民活動についての知識の啓発や推進を行う。

事業内容と成果	時期等
施設活用活性事業「亜麻ルシェ2024」企画運営業務 札幌市北区市民部地域振興課より事業を受託し、札幌エルプラザ公共4施設を会場として実施した。北区の特産である亜麻の認知度向上を主目的とし、エルプラザに関わる市民団体や地域団体の協力を得て運営した結果、各団体の連携と一体感が醸成された。また、公共4施設の分野に関連する多様なワークショップを実施し、参加者から高い満足度を得て多くの来場者を記録する盛況なイベントとなり、広く市民に亜麻を伝える貴重な機会を創出することができた。	日時：7/28 回数：1回 会場：札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：2,117人(延べ)

事業内容と成果	時期等
環境保全のための助成事業 漁業体験塾「魚とつくる海のミライ」 日本財団「海と日本PROJECT」の助成を受け、栽培漁業のプロセスを疑似体験するプログラムを道内5地区で開催した。札幌ではこども育成課手稲ブロックと連携し、金山・富丘両児童会館の児童を対象にヒラメの飼育、放流、調理体験を提供。参加者にはヒラメへの愛着が育まれ、海のゴミ問題やフードロス削減への意識向上が見られ、環境保全の啓発に大きく貢献した。加えて、当該事業の成果をまとめたパネル展を開催した。参加団体の観察日記や報告動画、プログラム写真等を展示することで、参加児童の学びを共有するとともに、市民に対し栽培漁業、水産資源、海洋保全の重要性を効果的に周知することができた。	日時：5/1～3/31 回数：3回(札幌地区開催分) 会場：銭函浜、札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：122人(延べ)
NPOとの共創事業「N活 学校編～NPOの“物語力”×キャリア教育の可能性を考えよう～」 NPOと教育関係者の相互理解促進を目的とし、連携・協働の在り方や具体的手法を議論・交流する場を設けた。「キャリア教育」を切り口に、実践者による学校と外部連携の現状やニーズに関する講話と、参加者間の意見交換の場を提供した結果、学校関係者・キャリア教育関係者・NPO活動者の間で、実現に向けた活発な質疑応答と話し合いが見られた。本事業は、連携に向けた繋がりのづくりの重要な契機となったと言える。	日時：1/19 回数：1回 会場：札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：26人

<利用状況>

(人)

	施設利用	相談事業	視察・見学	展示コーナー	総合学習	施設外事業	総利用 (前年度比)
男女共同 参画センター	262,730	319	2	—	—	1,531	264,582 (117.9%)
消費者センター	21,494	9,413	—	—	—	—	30,907 (106.2%)
市民活動 サポートセンター	39,308	722	0	—	—	3,077	43,107 (112.6%)
環境プラザ	21,164	43	557	22,460	539	1,990	46,753 (133.2%)
公共4施設	344,696	10,497	559	22,460	539	6,598	385,349 (117.8%)
情報 センター	127,289	—	—	—	—	—	127,289 (103.6%)
エントランス	7,486	—	—	—	—	—	7,486 (157.4%)

＜事業方針の達成状況＞

収支改善に向けた重要な第一歩として、既存事業の見直しに着手した。特に、収支バランスを考慮しながら依頼団体との金額交渉を進めることで、事業の収支改善に向けた具体的な動きを開始できたことは大きな成果となった。この取り組みにより、収益性の低い事業が明確化され、具体的な事業再編を着実に進めるための基礎固めの一年となった。

並行して、こども若者事業部との連携した取り組みも着実に進展しており、継続して実施している洞爺湖での児童クラブ対象体験活動事業では、児童会館の子どもたちを迎え入れる関わりのほか、日ごろ現場に出ることのない事務局職員の研修として場として、洞爺のキャンプ事業を提供し連携強化を図った。さらに、千歳事業所との連携においても、千歳市の児童館の子どもたちに対して、洞爺湖のプログラムをベースとした支笏湖での日帰りプログラムの提案や、巨大迷路企画運営補助など横断的な協力体制の強化を図ることができた。

	事業プログラム参加者数	利用者満足度
数値目標	3,000人（自主事業のみ）	95%（自主事業のみ）
実績 （達成度）	3,099人 (103.3%)	92%

＜重点・新規取組＞

その他法人の目的を達成するために必要な事業

①民間企業等から受託したイベント、企画運営等事業

「青少年の健全育成」、「地域社会の発展」を基本とし、各種機関・団体からの受託型イベント事業や公募型プロポーザル方式事業を実施するほか、当財団職員の専門性獲得につながる有益な情報の発信、労働安全衛生法上の「特別教育」及び「安全衛生教育」の取組を行う。

事業内容と成果	時期等
受託事業「下水道科学館フェスタ2024」 札幌市下水道公社から受託した事業として、遊んで学ぼう！さっぽろの下水道ワールド」をコンセプトとしたお祭りを2日間にわたり実施した。北区の児童会館の子どもたちによるコーナー運営やステージ発表を行い、地域と科学館をつなげることができた。	日時：9/7、9/8 回数：1回 会場：下水道科学館 参加人数：約8,000人

事業内容と成果	時期等
企画提案事業 「チャレンジ自然体験及び自然体験活動リーダー養成講座」 札幌市教育委員会からプロポーザル方式で受託した本事業では、地域で自然体験活動の実施を考えている市民向けに、全6回の講義と実習を行った。養成講座では、野外実習や安全管理の実践的な内容に加え、専門家による講義も実施した。これにより、参加者が地域で主体的に、かつ安全に活動できるよう支援し、学びを深める機会を提供できた。また、不登校児童への支援として、西区と白石区の教育センターに通う児童を対象に、近隣公園でグループワークを取り入れた外遊びを提案・実施した。本事業は、地域に根差した野外活動指導者の育成と、不登校児童に外遊びの楽しさを伝える貴重な機会となった。	日時：9/10～3/14 会場：滝野自然学園及びエルプラザ、白石区、西区 教育支援センター 【チャレンジ自然体験】 回数：4回 人数：12人 【自然体験活動リーダー養成講座】 回数：6回 人数：39人



5 SDGsの主な取り組み

当財団では、子どもから大人まで様々な方を対象に、学習機会や自然体験に関わる機会の提供、生活困窮世帯への支援、ジェンダー平等や自然環境の保全に向けた啓発活動等、幅広い活動を行ってきた。これらの事業活動を通して目指すものは、国連が定める「SDGs」が目指すものと同じ「よりよい社会の実現」であるため、当財団が事業の発展に向けて邁進することそのものがSDGsの達成に直接つながると考えている。

青少年の健全育成と社会参加に関する事業



子どもたちの学びをサポートする事業を通して、家庭環境に左右されない学習機会を創出する。また、自然の中での体験機会を創出し、環境保全意識の醸成と、豊かな人間性の発達に貢献する。

事業内容と成果

豊平川の冒険～身近な豊平川を知ろう～（札幌市児童会館・ミニ児童会館）

外部講師を招いて専門的な環境教育につなげることを目的に実施した。豊平川に入ることが初めての児童や保護者が多かったものの、川に生息する魚や昆虫の採取を行った。捕獲した生き物については、講師による詳細な解説が行われ、児童は熱心に耳を傾ける等、主体的な参加が見られた。ゴール4「質の高い教育をみんなに」の達成に貢献した。

C-ふぁーむ～牛乳のヒミツ～（千歳市児童館・学童クラブ）

酪農学園大学と連携し千歳市内の小学生を対象に酪農体験を実施した。参加した子どもたちは、搾乳体験や牛へのエサやり体験等を通して、生産者の思いや製造過程を学び、酪農に対する新しい見方や消費する側の重要性に気づくことができ、ゴール12「つくる責任 つかう責任」に貢献した。

市民活動の振興に関する事業



財団創設時から、社会に関わる全員が平等に能力を発揮できる社会を目指して活動してきた。これは、ジェンダー平等を謳うSDGsの理念と同じ考えであり、当財団が目指す社会のあり方そのものでもある。これからもだれもが活躍できる社会の創出に、機会や場所の提供で貢献する。

事業内容と成果

さっぽろあそエコ団（札幌エルプラザ公共4施設 環境プラザ）

小学1～6年生を対象に登山を行い植物が紅葉する仕組みについて学ぶ等、市内の様々なフィールドにて環境に関する活動を実施した。さっぽろ子ども環境コンテストにて取り組みの発表を行い最優秀賞を受賞したビーチコーミングの活動後は参加者から「ゴミを捨てないでほしいと思った」という声が聞かれ、ゴール14「海の豊かさを守ろう」とゴール15「陸の豊かさを守ろう」のターゲット15-1「森林破壊の防止や生態系の保護」に貢献した。

6 基金事業

1 こども基金「さっぽろスマイルキッズ」事業

子どもの健全育成に関する事業や地域活動推進事業等の継続的な活動に対する支援を行い、子どもが健やかに成長していくために地域社会がともに助け合い、支え合う環境の醸成に寄与することを目的に実施する。

<協力者一覧>

	寄付者氏名	寄付額(円)
法人	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	35,933
	道民防災コンサルタント株式会社	50,000
	株式会社第一エンジニアリング	100,000
	北海道デジタル・アンド・コンサルティング株式会社	20,000
個人	個人寄付者	114,000
団体	人形劇団えりっこ	30,000
	読み語りの会	10,000

寄付金総額 359,933円（全17件）

<自主事業>

事業内容	時期等
「オータムキャンプinたきの」 ハンディキャップを持つ小学生を対象に秋のキャンププログラムを提供した。収穫物を使ったデザートづくりやキャンプファイヤー、クラフト工作等の体験活動を通して参加者同士が交流を楽しみ、自己肯定感を高め合うきっかけを作ることができた。	日時：10/26～27 回数：1回 会場：北方自然教育園、滝野自然学園 参加人数：17人

<助成事業>

助成団体	事業名	助成確定額(円)
Hokudai Food bank	<一般活動事業> 中高生とフードロス、フードセーフティネットについて考えるフードバンク事業	157,895
故新和楽	<一般活動事業> 日本の楽器と踊り体験鼓と笛をやってみよう!	180,000
特定非営利活動法人 こども共育サポートセンター	<滝野自然学園活用型事業> 野あそびキャンプ	200,000
特定非営利活動法人 ネイチャープログラムデザイン	<滝野自然学園活用型事業> 2024滝野さとやま探検隊	146,256

2 こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業

すべての子ども若者が未来へ向けてチャレンジできる社会の構築をめざし、経済的困窮等により困難を抱える子ども若者の教育及び生活の安定に資することにより、社会的自立を支援することを目的に実施する。

<協力者一覧>

	寄付者氏名	寄付額 (円)
法人	株式会社ロイド・エステート その他3法人	10,000 1,550,000
個人・団体	個人寄付者 1団体	1,066,000 9,000

寄付金総額 2,635,000円 (全125件)

<子ども・若者の居場所「いとこんち」事業>

札幌市立中島中学校の校区内に拠点を設け、おおむね13歳から19歳の子ども・若者、若年シングルマザー、社会的養護から巣立った若者を対象に、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供している。民泊施設の活用に加え、地域住民の厚意により利用可能となった一軒家「ひとてま」にて、利用者の受け入れのほか地域住民を対象とした「ひとてまつり」や子ども食堂の実施等、全世代が利用できる地域交流拠点として運営した。また、(一社)ソーシャルペダゴジーネットと連携し、移動型の居場所機能を持つ「リビングカー」を活用し、距離的な面でいとこんちの継続利用が難しい子ども・若者を対象にアウトリーチ活動を積極的に展開した。



利用実績

利用実績	開所日数	本人	家族	支援者	利用人数計
いとこんち	137	404	104	231	739
ひとてま	149	—	—	—	1,921

	宅配回数	持帰り回数
いとこづつみ (食料等のおすそ分け)	112	199

実施したイベント等

就労体験・支援 (農業、ネイル)、リビングカー事業 (宅配・出張駄菓子屋)、学×食 (食の提供を含む学習支援)、中島中学校朝ごはんカフェ、地域交流活動 (寄席、縁日、中島中合唱部コンサート、書初め、盆踊り・よさこい等)、曙サマーフェスタ (地域の夏祭り) へのブース出展、クラシックコンサート鑑賞、季節行事 (BBQ、クリスマス会、誕生日会等)

7 重要な契約に関する事業

(1) 地域活動等事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	55,987
地域若者サポートステーション事業	北海道労働局総務部長	52,241
子どものくらし支援コーディネート事業	札幌市長	31,856
札幌市困難を抱える若年女性支援業務	札幌市長	17,960
ヤングケアラー相談サポート事業	札幌市長	7,493
女性スタートアップ人材育成事業	STARTUP HOKKAIDO実行委員会	6,851
困難を抱える女性に対する支援業務	札幌市長	6,590
障害者等による文化芸術活動推進事業	文化庁	4,484

(2) 指定管理事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,891,903
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	256,656
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	180,323
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	129,390
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	77,903
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	47,813
札幌市元町北ポプラ児童会館管理業務	札幌市長	39,328
札幌市東山児童会館管理業務	札幌市長	33,089
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	19,789
千歳市青少年会館管理業務	千歳市長	4,689

(3) 受託事業

(千円)

契約の概要（業務名）	相手方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	2,326,500
千歳市児童館・学童クラブ運営業務	千歳市長	406,775

IV 事務報告

1. 設立年月日

昭和55年4月1日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所：札幌市西区宮の沢1条1丁目1番10号

従たる事務所：札幌市中央区南4条西6丁目8番3号晴ればれビル10階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理事長	本間 芳明	(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	森 有史	(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理事	相馬 宏哉	(特非) ネイチャープログラムデザイン 理事長
理事	菊地 秀一	(一社) 札幌市私立保育連盟 会長
理事	藪 淳一	(一社) 札幌市私立幼稚園連合会 会長
理事	生出 裕一	(公財) さっぽろ青少年女性活動協会 事務局長
理事	犬嶋 ユカリ	(株) 井上技研 取締役副社長

(2) 監事

監事	西田 史明	札幌商工会議所 理事・事務局長
監事	田瀬 祥夫	(一社) エリアクラフト北海道 代表理事 / 公認会計士

令和7年3月31日現在 計9人

令和6年度における理事会は、次のとおり4回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和6年 6月4日	【第45回理事会】 1 「令和5年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2 「令和5年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3 「令和6年度 予算の変更」の件 4 「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決
令和6年 6月20日	【第46回理事会】 1 「理事長及び専務理事の選定」の件 2 「役員の報酬月額等の決定」の件	1 可決 2 可決
令和6年 11月6日	【第47回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件	1 報告
令和7年 3月6日	【第48回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件 2 「令和6年度 予算の変更」の件 3 「特定費用準備資金の設定」の件 4 「令和7年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件 5 「役員賠償責任保険の契約更新」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決 5 可決

(3) 評議員

評議員	東田 俊和	(公財) 北海道青少年育成協会 専務理事
評議員	梶井 祥子	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会 会長
評議員	菊池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 相談役
評議員	西田 充潔	北星学園大学 教授
評議員	秦 直樹	社会福祉法人常德会 理事長
評議員	林 美枝子	日本医療大学 教授
評議員	林川 希	札幌市PTA協議会 副会長
評議員	箭原 恭子	(公社) 札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長

令和7年3月31日現在 計8人

令和6年度における評議員会は、次のとおり1回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
令和6年 6月20日	【第14回評議員会】 1 「令和5年度事業報告及び附属明細書」の件 2 「令和5年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3 「理事の選任」の件 4 「監事の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決

6. 職員に関する事項（令和6年度末現在）

（1）事務局組織図（令和7年3月31日現在）



(2) 職員数

事務局長	1人	パートタイム職員	1,122人
総合職	522人	主任パートスタッフ	275人
児童指導員	266人	サポートスタッフ	31人
専門指導員	24人	再任用職員	30人
職場限定職員	10人	臨時職員	59人
		合 計	2,340人
		内、常勤職員数	1,128人
		内、非常勤職員数	1,212人

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：令和7年5月23日）